

「黒田清輝氏の美術教育に關する意見書」

黒田清輝氏の「美術教育の方針」は先に本紙に續載したれば讀者は氏の意見の存する所を了せしならん、尙氏が當時其筋に向つて提出せる意見書を得たれば本欄に掲ぐるものとせり

一 必然の趨勢を察し現代の思想に適したる美術教育の方針を確定して日本美術の發達を計るべし

今日の時代は世界競進の時代にして世界的思想は交通區域の擴張するに隨ひ日を逐ふて増進せり獨り美術のみ舊來の成法を脱せずして永く其技を維持せんこと到底望む可らず此特勢に抗して保存的方法を講ずるものは一トたび發達したる技法を模倣するに止まれり凡そ既往の開化が產出したる形式は死したる形式なり死したる元素を以 生物機關の生存を維持すべからざるは社會哲理の原則にして美術も亦此理の外に出でず宜なり古人の舊套を株守する一派の藝術の今は其空骸を残すに止りて全く其精神を亡失したるや今日の急務は老衰したる我美術に新智識を注入しこれを復活して新思想の表顯に適當なる美術を開發するにあり

二 美術と工藝とに嚴正なる分離をなすべし

我邦にて從來錯誤の甚しきは一般藝術と純正美術と又工藝品と美術作品とを混じて一となすにあり之より生ずる弊害は決して少しとせず各國慣法の異同は敢て論ぜず美術と工藝との間に限界を生ずるは根本の目的既に相反するに依る加^{しかのみならず}之美術は自己の思想を顯はすを主とし工藝は他の嗜好に投ずるを要す工藝家にして世情を察せず

徒らに用途なき製作に耽り將美術家にして自己の特技を研くを忘れて時流に左右せらるゝが如きは共に一國の不幸と云べし歐洲にありて或種の工藝品は趣味の上に於て極めて美術作品と類似するものなり就中佛國は所謂美術工藝を其長技として世に誇るの國なりと雖も猶肯て之を美術と混同せざるは蓋し其弊の生ずる所を察するなり、我美術學校は右の誤謬の中に創立せられ之に加ふるに舊技保存の意思を以てし美術修養の力を分ちて其發達を妨ぐることに少しとせず且美術の標幟を明にすべき専門教育の旨意は一般の見解を確むるが爲に美術の識別に言ふ可らざる混亂を生ずるの實例は既往の萬國博覽會に於ける我美術出品の屢失敗を重ねたるを以て證すべし是美術と工藝と均しく損害を被るものなり宜しく速に二種の教育を分離し美術學校にては純正美術の開發に全力を注ぎ有力の美術家を養成せしむべし

三美術學校は美術家を養成するを目的とすべし

美術學校は美術家を養成するを以て單一の目的として之に適したる教授法を採用せざるべからず技術の修養に必要ならざる多くの學科を置くは徒に課目を煩多ならしめて實技に用ゐるの暇を奪ふものなり若し夫れ各師範學校中學校等に於ける圖畫の教員は文部省に於て檢定試験を行ひ博く世の技術家中より之を拔擢するを以て専門學校に於て特に此種の人物を養成するを要せず然るに從來美術學校は教員を養成する方針を取り其卒業生は各地方の圖畫教員となり或遂に美術學校の教員となるを最大の目的となせり是豈美術を學ぶの本旨ならんや宜しく此弊を改めて眞の技術家を養ふ道を開かざるべからず。(未完)